

平成21年5月1日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006年度～2009年度

課題番号：18320030

研究課題名（和文） 昭和戦前期の官展工芸における「伝統」的作品の研究

研究課題名（英文） A Study of Tradition in Japanese Academic Craft in 1930s

研究代表者

樋田 豊次郎（TOYOJIRO HIDA）

秋田公立美術工芸短期大学 学長

研究者番号：40132708

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：伝統、アジア、官設美術展、近代工芸、楽浪漆器、六角紫水、小場恒吉、山鹿清華、津田信夫

### 1. 研究計画の概要

この研究は、昭和戦前期の工芸界で構築された「伝統」概念の考察を目的とする。

具体的には、楽浪漆器に触発された六角紫水の漆芸、山鹿清華の染織、津田信夫の鍍金、海野勝珉の彫金下絵、GHQの美術政策などを題材にして、造形化された「伝統」の諸相を調査する。

### 2. 研究の進捗状況

(1) 以下の作品調査をおこなった。

①韓国国立中央博物館所蔵の楽浪漆器

(平成18、19年度)

②シアトルの個人所蔵の津田信夫作品

(平成18年度)

③秋田市所蔵の小場恒吉の装飾図案模写

(平成19年度)

④山鹿清華旧宅の遺品資料

(平成18、19、20年度)

⑤東京芸大所蔵の海野勝珉の彫金下絵

(平成18、19年度)

(2) 以下の文献調査をおこなった。

①三木清らによる戦前の亜細亜協同体論

(平成18、19、20年度)

②六角紫水の楽浪漆器調査報告

(平成18、19、20年度)

③柳宗悦の満州民芸調査

(平成21年度)

④GHQの美術政策資料

(平成18、19、20年度)

(3) シンポジウム「楽浪漆器—〈アジア造形文化の基層〉を探る試み—」を開催した。

主催：東京藝術大学・秋田公立美術工芸大

学・日本基層文化研究会

期日：2008年11月22日

会場：東京藝術大学

### 3. 現在までの達成度

「②おおむね順調に進展している。」

作品および文献調査は予定より遅れ気味ではあるが、調査の途中経過報告としてシンポジウム「楽浪漆器」を開催することができた。また、同シンポジウムの報告書も作成できた。

### 4. 今後の研究の推進方策

(1) 上記調査に基づき、報告書を執筆、作成する。

(2) 国際シンポジウム「楽浪漆器」を、国内および韓国の研究者の研究者9人によって開催する。

主催：秋田公立美術工芸大学・日本基層文化研究会

後援：美術史学会（予定）・漆工史学会（予定）・フォーエバー現代美術館

期日：2009年11月22日

会場：秋田公立美術工芸大学

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

①前川公秀「香取秀真と津田信夫の工芸観」、『花美術館』4号所収、2007

〔発表〕（計 2 件）

①樋田豊次郎「六角紫水の構想したアジア美術の基層」、シンポジウム「楽浪漆器—〈アジア造形文化の基層〉を探る試み—」（東京藝術大学・秋田公立美術工芸大学・日本基層文化研究会主催）、2008年11月22日、東京藝術大学

②横溝広子「小場恒吉による楽浪漆器の文様調査」、シンポジウム「楽浪漆器—〈アジア造形文化の基層〉を探る試み—」（東京藝術大学・秋田公立美術工芸大学・日本基層文化研究会主催）、2008年11月22日、東京藝術大学

〔図書〕（計 8 件）

①樋田豊次郎「オブジェ焼の時代」（5 頁-38 頁）、樋田豊次郎・稲賀繁美編『終わりきれない「近代」—八木一夫とオブジェ焼』所収、美学出版、2008

②松原龍一「八木一夫の軌跡」（39 頁-68 頁）、樋田豊次郎・稲賀繁美編『終わりきれない「近代」—八木一夫とオブジェ焼』所収、美学出版、2008

③樋田豊次郎「明治工芸論」（128 頁-149 頁）、稲賀繁美編『伝統工芸再考 京のうちそと—過去検証・現状分析・将来展望—』所収、思文閣出版、2007

④横溝広子「明治政府と伝統芸術」（150 頁-162 頁）、稲賀繁美編『伝統工芸再考 京のうちそと—過去検証・現状分析・将来展望—』所収、思文閣出版、2007

⑤横溝広子『海野勝珉下絵・資料集 東京芸術大学大学美術館所蔵』（150 頁）、東方出版、2007

⑥佐藤直子「無形文化遺産に関するユネスコの取り組みを振り返って」（344 頁-361 頁）、植木行宣監修『民俗文化財保護行政の現場から』所収、岩田書院、2007

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

○取得状況（計 件）

〔その他〕